

- 言語の研究 ; 泉井 久之助
- うそと心理学 ; 相場 均
- 序説^のことばの原理 ; 井上 増次郎
- その他

THAT の 研 究

(他の関係代名詞との関連の中で)

前 書 き

多 賀 良 江

古代英語では、関係代名詞は that だけだったが、チョーサーの時代までには、whose, whom があらわれ、やがて who も that と共に使われるようになった。それとともに、which も関係代名詞として用いられるようになり、who, which は文学語、that は口語と区別された。その後、口語英語を文学に使用しようとする運動によって、that も再び文学に用いられるようになったのである。

そういう関係代名詞の歴史をざっと概観しただけでも、現在でもまだ関係代名詞の用法は不安定なのではないかと疑いをもちたくなる。その中でも特に用法が特殊な that を中心に現代の関係代名詞、who, which, that, 接触節の用法上の区別をとらえ、そこに、生きた英語の変化を見ようとしたのである。

序 論

I アメリカの雑誌 LIFE を資料とした。

II that, who, which, 接触節をぬきだした。

III 本論 I では、that を中心として関係代名詞の用法の変化を見、II において、従来 that が好まれてきた箇所に、現在も that が好まれているだろうかという事を数値と実例をあげながらみていく。

本 論

I that, who, which, 接触節の一般的傾向

(1) that, who, 接触節の一般的傾向 —— 先行詞が人(動物)を表わす場合。

(2) that, which, 接触節の一般的傾向 —— 先行詞が人を表わすものの以外の場合。

II who, which より that が好まれる場合

(1) It is (was) の後

(2) 不定代名詞、殊に any-, every-, no- の複合詞、all の後。

- (3) 疑問代名詞を先行詞とする場合。
- (4) 先行詞が最上級の形容詞, the very, the only, the last, the firstの如き, 特殊な限定形容詞を伴っている場合。
- (5) 述詞として用いられている場合。
- (6) 関係詞と動詞beのみからなる特殊な関係詞において。
- (7) who, whichよりthatが好まれる傾向があるか?

結 論 —— 関係代名詞の役割り制

「英語の諸語は、互いの間に間隙を欲求する。各語は、互いに袖もふれ合わさんばかりのかすかの差しかないそれぞれの意味的中心のまわりに群がって、目自押しにならぶことは好まない。」

(サビア:「言語」)

この事は、文法的機能についても言えないだろうか。

関係代名詞の役割り制ということが、現在、writingにおける関係代名詞の用い方の中にうかがえるのである。

whoは、人を表わす先行詞の主格に。(制限用法も非制限用法も含む。)

接触節は、人も物も含めて、目的に。及び副詞的用法に。

whichは、物を先行詞とした非制限用法の主語、及び、前置詞が先行する場合に。

thatは、物を先行詞とした制限用法の主語に。

現在の関係代名詞はだいたいこういう傾向を持って使われている。

thatが、今後も関係代名詞として使われていくには、こういう役割り制が発達しないと接触節におされてしまうのではないかと思う。

参考文献

- | | | |
|------------------|---|--|
| 1 Otto Jespersen | : | A Modern English Grammar on Historical Principles. |
| 2 C. Wrenn | : | The English Language. |
| 3 荒木 一雄 | : | 関係詞 英文法シリーズ |
| 4 江川 泰一郎 | : | 代名詞 英文法シリーズ |
| 5 八木 林太郎 | : | 副詞・接続詞・間投詞 英文法シリーズ |
| 6 空西 哲郎 | : | 動詞 英文法シリーズ |
| 7 小西 友七 | : | 現代英語の文法と背景 |
| 8 金口 儀明 | : | 名詞・代名詞 現代英文法講座 1 |
| 9 原沢 正喜 | : | 現代口語文法 現代英文法講座 7 |
| 10 古賀 治夫 | : | 現代英語の正用法 上下 現代英文法講座 10 |
| 11 E. サビア | : | 言語、ことばの研究 |